

# 2016 年度漢城大学校サマープログラム報告書

国際協働 G 三年  
石丸拓実

今回、サマープログラムに参加して韓国の言葉、文化、生活を学び、体験することができました。自分は韓国語を勉強したことがなく、全く韓国語を知らない状態で韓国に行きました。なので最初韓国の空港についたとき全く周りの言葉も理解できず、この先やっていけるかと不安になりました。しかしプログラムの授業の中で韓国語を勉強し、ハングルの構造を少し理解することができました。韓国語は人によって作り出された言葉であるので、ある一定の法則性をおぼえれば、読めるようになることが自分の体験から学びました。また、韓国語の発音は日本人には難しいことが分かりました。自分たちが何度発音しても韓国の人たちには伝わらず、首を傾げられる場面がなんどもありました。しかし、日本語との共通点も見つけました。それは、語順です。日本語は主語の後補語が入って最後に述語です。韓国語も日本語と同じ順番で単語が並べられます。

また、プログラムの中で景福宮という昔の王宮に行きました。そこにはブルーハウスと呼ばれる現在の大統領の官邸があります。そこでは韓服を体験し、門番の交代式を見学しました。交替するためにやってきた兵隊たちはこまでやるかというくらいに動きをピタリとそろえ、行進してきました。その後交替するときもただ変わるのではなく隊長の掛け声で交替



していました。景福宮はとても広かったです。景福宮はかつての王族が住んでいただけあって豪華な作りでした。ただ豪華なだけでなく装飾や壁画、建物の向きなどには、風水的な意味合いを持っていて、王族を守っていました。景福宮を回っている間、ずっと韓服を着ていましたが、生地が分厚く、真夏の韓国で着るには少し暑かったです。

他に印象的だった場所が、北朝鮮との軍事境界線、DMZ です。ここでは自分の知らない韓国と北朝鮮の分断の歴史や、現在の関係性を勉強することができました。まず驚いたのが北朝鮮と韓国はほんとに近くに位置しているということです。韓国にある展望台から北朝鮮側を見ると、すぐ先に北朝鮮の街が見えます。また、その展望台には北朝鮮を監視する軍人の人たちもいました。まさか北朝鮮が肉眼で見えるところにあるとは思わず、驚きでした。

その展望台とは別に北朝鮮に最も近い駅に行きました。そこで知ったのは、今でも一日に一本、平壤いきの列車が運行していることです。もちろん一般の人は利用することはできないのですが、北朝鮮と韓国は完全に分断されていると思っていたので一本でも列車が走っ

ていることに驚きました。また、もし北朝鮮が線路を開通してくれたらいい、韓国からヨーロッパまで線路でつながることになるそうです。現実的には難しい話かもしれませんが、実現したら夢やロマンがあると思いました。

韓国で最もいい体験だったと思うのが韓国の人たちとのコミュニケーションが取れたことです。韓国に行く前、自分は外国人に対して少なからずマイナスなイメージを持っていました。しかし今回のプログラムを通して考えが変わりました。特に今回チューターをやってくれた人たちは本当にいい人たちばかりで、困っているときの助けになりました。韓国の人でも辛いものが苦手な人がいることなど、意外な事実も話を聞く中でありました。

海外に行った方がいいとよく聞いていて、今回初の海外だったのですが、自分も海外に行った方がいいと今回思いました。日本の文化を離れ、他の国の文化を学ぶ、体験するというのは自分の視野を広げ、人間として成長させてくれると思いました。

